

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	17-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Binge drinking: Health impact, prevalence, correlates and interventions. 多量飲酒が及ぼす健康への影響・有病率・介入の効果について		
<b>執筆者</b>		
Emmanuel Kuntsche, Sandra Kuntsche, Johannes Thrul & Gerhard Gmel.		
<b>掲載誌</b>		
Psychol Health. 2017 Aug;32(8):976-1017. doi: 10.1080/08870446.2017.1325889. Epub 2017 May 17.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
多量飲酒、ナラティブ レビュー、健康影響、介入		28513195
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            飲み騒ぐような多量の飲酒（1回当りの多量飲酒・リスクの高い飲酒）は、公衆衛生上の大きな課題である。多くの論文が公表されているが、異なる点も多い。本論文では、飲酒の定義や飲酒の測定方法、有病率、健康への影響などに関して、公表された論文のエビデンスを含め概要を提供するものとする。</p> <p><b>方法：</b>            ナラティブ・レビュー</p> <p><b>結果：</b>            飲み騒ぐ多量の飲酒は、主に週末、若者に起こる事が多く、短期的（例えば怪我）・長期的双方で負の影響（例えば、アルコール依存症）を増加させることが分かった。多量の飲酒者は、外向的で、衝動性が高く、噂になるような事を追い求めているような傾向があった。また、ストレスや不安、心の傷になるような出来事、またうつ病は多量の飲酒に関連していた。親の飲酒に対する振る舞いも大きな影響を与える。その他の危険因子として飲酒をする友達と過ごす時間や、社会環境（例えば、学校、コミュニティ、文化など）などが影響していた。誕生日パーティー（特に法律で飲酒が許される年齢のパーティー）や、男子学生の社交パーティー、職場は、介入の良い機会となると考えられる。またこれらの介入は、今後ますますデジタルやモバイル技術の発展により新しい方法での介入される事になるだろう。これらのアプローチ（簡潔な介入、個別のフィードバック、予防戦略など）は、小集団のみだけでなく、人口全体に対して効果があるとされている。</p> <p><b>結論：</b>            今後の研究課題は、専門用語の統一や、さらなる詳細な調査、効果的な介入対策の検討である。</p>		